

特・定・健・診

～未来の健康のために～
健診を受けて 健康へ一歩前進

羽曳野市国保では、40歳以上の方に1年に1回特定健康診査を実施しています。

特定健康診査はメタボリックシンドロームに着目した健診で、受診していただくことで近年増えている糖尿病や高血圧などの早期発見・早期治療につながり、生活習慣病の発症や重症化を予防することができます。



武庫川女子大学
看護学部看護学研究科
教授 和田京子

●●●糖尿病の発見も特定健診から。

9月21日、厚生労働省が平成28年度国民健康・栄養調査の結果を発表しました。

「糖尿病が強く疑われる人」(※1)と「糖尿病の可能性を否定できない人」(※2)が、20歳以上では全国で約2,000万人にも上ると推計されています。

<(※1) HbA1c値が6.5%以上、または「糖尿病治療の有無」に「有」と回答した人。(※2) HbA1c値が6.0%以上、6.5%未満の人。>

HbA1c (ヘモグロビン・エー・ワン・シー)：過去1～2カ月間の平均血糖値を反映する指標

「糖尿病が強く疑われる人」のうち、現在治療を受けている人の割合は76.6%ですが、なかでも、40歳代の男性では治療を受けている割合51.5%と他の年代よりも低くなっています。糖尿病は、自覚症状のないままに進行するので、血液検査をしないとわかりません。体調がよいので大丈夫、まだ若いから大丈夫、と思いがちですが、まず特定健診を受診して調べてみましょう。



●●●6年間、特定健診を受診しなかった場合…

→約半数に糖尿病の心配が！

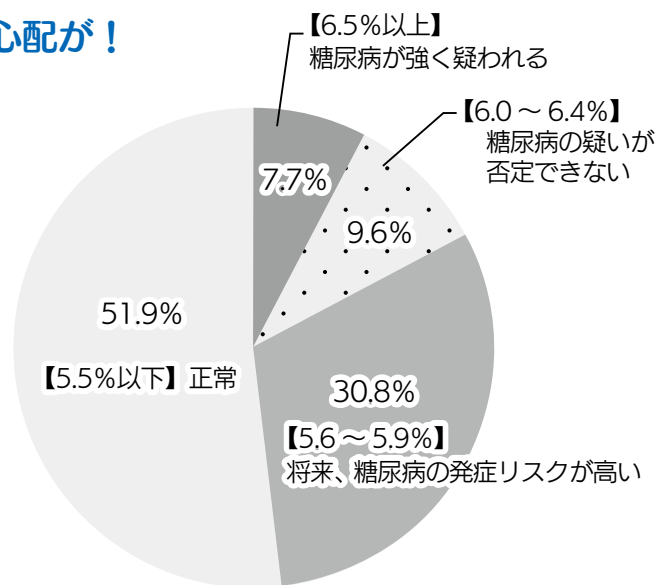
平成28年度に羽曳野市の特定健診を受診した人のうち、過去6年間(平成22～27年度)に一度も特定健診を受診していなかった52人の血液検査結果と治療状況を調べてみました。

HbA1c値6.5%以上の「糖尿病が強く疑われる人」は、4人(7.7%)、6.0～6.4%の「糖尿病の疑いが否定できない人」は、5人(9.6%)もおられましたが、このうち糖尿病の治療をしている人は1人のみでした。また、5.6～5.9%の「将来、糖尿病を発症するリスクが高い人」は16人(30.8%)で、「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の疑いが否定できない人」をあわせると25人(48.1%)と約半数を占めていました(図1)。

糖尿病は、高血糖が慢性的に続く病気で、重症化すると糖尿病網膜症・糖尿病腎症・糖尿病神経障害という合併症のほか、心臓病や脳卒中になるリスクも高まります。

特定健診を受診したことで、糖尿病の疑いがあることが発見され、生活習慣の改善や医療機関への受診のきっかけとなったのではないかと思います。糖尿病がより進行する前に気づくことができ、本当によかったです。このまま放置していたら、5年、10年、15年後に糖尿病網膜症・糖尿病腎症・糖尿病神経障害などの合併症になっていたかもしれません。

「人工透析」という言葉を耳にしたことがある方は多いのではないのでしょうか。人工透析に至る原因の第1位は糖尿病腎症です。人工透析が必要な状態や心臓病、脳卒中になってつらい思いをすることのないよう、いきいきと生活が



(図1) 平成28年度特定健診受診者のうち、過去6年間未受診だった52人のHbA1c値【HbA1c】…ヘモグロビン・エー・ワン・シー値

送れるよう、特定健診の受診で早期発見・早期治療、生活習慣の見直しを行いませんか。

特定健診は大阪府内の実施医療機関で受診できます。特に、羽曳野市・藤井寺市の羽曳野市民健診実施医療機関で受診される場合、心電図・貧血などの検査を含む項目を追加負担なく同時に受診できます。受診券と一緒に送られた特定健診実施医療機関の一覧(住所・電話番号記載)をご覧ください。身近な医療機関にお問い合わせください。

<問合せ> 保険年金課 保健事業担当 ☎072-958-1111 内線1761